

常任理事 会担当者	委員会名	委員長	平成30/31年度 課題と抱負 (50-200文字程度を目安にご記入ください)
北川	理事会	北川 昌伸	
	倫理委員会	横崎 宏	病理学会会員、外部組織からの病理関連倫理事項の問い合わせに適宜対応する。 現在日本医学会を中心に策定されつつある「研究発表に当たっての倫理ガイドライン」共通化に参画し、病理学会総会等における演題応募時倫理的手続きの導入を検討する。 日本病理学会病理画像(P-WSI)情報プラットフォーム構築事業(JP-AID)の研究計画ならびに実施に際しての研究倫理案件を審議し、事業の適切な遂行を監視・補助する。
	COI委員会	伊藤 雅文	「医学研究のCOIマネジメントに関する指針」にのっとり、例年通り日本病理学会役員、各種委員会委員長、委員、倫理委員会委員、COI委員会委員 各位からCOI自己申告書の提出を受け、COI委員会で検討する。COIマネジメントの観点から疑義を生じる事例が発生した場合に、適切なCOIマネジメントを行う予定である。
安井	企画委員会	安井 弥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病理学の発展に資する種々の企画について検討、立案、実施する。</li> <li>・研究委員会と連携し、日本病理学会が主導で行なう研究事業の適切な運営を図る。</li> <li>・病理情報ネットワーク管理運営委員会と連携し、「病理情報ネットワーク」の有効活用と円滑な運営を図る。</li> <li>・男女共同参画委員会と連携し、病理学における女性医師支援、男女共同参画を推進する。</li> <li>・希少がん病理診断支援検討委員会と連携し、希少がんの病理診断支援体制の構築と適切な運営、人材育成を図る。</li> <li>・学術委員会と連携し、学術総会における「電子抄録アプリ」の新しい体制を構築する。</li> </ul>
	研究委員会	安井 弥	日本病理学会が主導で行なう研究事業の計画と実行、財務・倫理・知財等に関して審議し、適切かつ円滑な運営を図る。 研究委員会の下に、個人情報及び匿名加工情報取扱委員会(仮称)を設置する。
	個人情報及び匿名加工情報取扱い委員会	安井 弥	研究委員会の下で行なわれる研究事業等における個人情報及び匿名加工情報・非識別加工情報等の取扱いが適正に実施されるよう、監督、管理を行う。
	学術評議員資格審査委員会	西川 祐司	現時点での課題を把握し、委員会メンバーの先生方と相談しながら学術評議員内規に基づいた公正で適切な審査を進めていきたいと考えている。
	功労会員・名誉会員資格審査委員会	岡田 保典	名誉会員は会員数の1%以内で選ばれており、今期も同様な方法で審査を継続する。功労会員に関しては、学術評議員歴20年以上を申請資格として審査されており、本基準での審査を継続する。また、功労会員・名誉会員審査に関連する事項についても随時審議する。
	病理情報ネットワーク管理運営委員会	宇於崎 宏	新サイトの運営を開始する。専門医教育用や生涯教育用などのコンテンツを充実させるために該当委員会と調整を進める。
	男女共同参画委員会	橋本 優子	
	希少がん病理診断支援検討委員会	佐々木 毅	厚生労働省「希少がん診断のための病理育成事業(国庫補助金)」の遂行のための基盤整備および講習会を開催する。
	国際交流委員会	小田 義直	日英交流(隔年のシニア交流、毎年のジュニア交流)、日独交流(隔年のシニア交流)は従来の形式を継続する。日英交流は英国、日本の間でシニア派遣に関して旅費の負担などが不規則・複雑化しており整理する。日中交流はサクラファインテックのスポンサーシップシンポジウムの形式を一旦見直して再検討する。ヨーロッパ病理学会との交流も具体案を検討してゆく。秋の総会のInternational Poster SessionはIAP日本支部との共同で進め、春・秋の総会ともに主にアジアからの病理医の参加を促し国際化を推進する。
研究推進委員会	笹野 公伸	近年癌遺伝子診断パネルを含むNGS、再生医療、liquid biopsyなど基礎生物学の進捗/進歩を病理学も積極的に取り入れる事が研究面ばかりでなく 診断 教育面でも強く望まれるようになってきている。この点で本委員会は病理学会会員に 上記の知識をしっかりと伝達する事を目標とし 今まで好評を博してきたサイエンスと病理学を融合させた病理学会カンファレンスの益々の発展を含めて活動を進めていく所存である。	

常任理事 会担当者	委員会名	委員長	平成30/31年度 課題と抱負 (50-200文字程度を目安にご記入ください)
小田	ゲノム病理診断検討委員会	小田 義直	「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」は認証機能付きe-learning systemが完成し、専門医制度など資格認定との運動を検討する。従来の東大病理標準化センター講習会が昨年度限りで終了となり、同様の内容で新たな有料の講習会開催のための「ゲノム病理標準化講習会委員会」を設立し講習会を企画運営してゆく。「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」は平成30年度末に冊子体が完成し全国に配布を行った。動画を6月中に完成しHPで公開予定で、さらに規程の英文論文化を進める。
	ゲノム病理組織取扱規約委員会	金井 弥栄	『ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程』ならびにその英文版(Pathol Int68: 63, 2018)の普及により、疾患ゲノム研究における病理の重要性の認識が広がった。今期は、新規に開発されるゲノム解析手技等に対応して実証解析を行い、国際標準化とも歩調を合わせて、時宜を得た同規程の改訂を行う。Webページ・eラーニング運営と講習会を介して規程の更なる周知に努め、ゲノム研究の進展とゲノム医療の社会実装に貢献する。
	ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程策定WG	小田 義直	「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」は平成29年度末に最終版が完成しその冊子体を印刷し全国の病理医およびゲノム診療に関与する施設に配布を行った。動画を6月中に完成し病理学会および吉野班関係のHPに公開予定で、さらに規程の英文論文化を進め国際誌に投稿し内容を世界に発信する。
	ゲノム病理標準化講習会委員会	増田しのぶ	ゲノム診療を取り巻く環境の急速な変化に伴い、病理が担う役割も格段に広がり深さを増している。ゲノム病理標準化講習会委員会は、今年度新たに発足したゲノム病理標準化講習会の企画、運営を担う委員会である。病理医のみならず、病理検査技師、臨床医を対象に、ゲノム診療における適正な病理検体取扱の理解を促すことを目的とする。
	コンサルテーション委員会	小田 義直	希少がんで遺伝子解析が病理診断に重要となる骨軟部腫瘍と脳腫瘍の領域でコンサルタントの解析実費を請求するシステムを構築運用してゆく。コンサルテーション症例の研究・論文化に際しての倫理的な原則案を策定する。
坂元	財務委員会	坂元 亨宇	学会の財務状況の健全な運営に努めるとともに、学会としての必要な取り組みに対して、財政的な対応を柔軟に行う。新たな会計事務所への移行に伴い、事務局経理体制を一層整備、充実させる。
	PI刊行委員会	坂元 亨宇	安定かつ質の保たれた出版を行うことを最優先にしなが、引き続き、雑誌のさらなる発展、国際化に取り組む。副編集長3名との協力体制のもと、新規企画の導入を行う。編集長、常任刊行委員の選出方法につき検討する。
	PI常任刊行委員会	坂元 亨宇	
	PI編集長・副編集長会議	坂元 亨宇	
	編集委員会	伊藤 智雄	病理学会の「PI」、「剖検報」、「診断病理」の雑誌の編集および「コア画像」の配信をを介した有効的な学術的情報発信を行う。会員によるこれらの媒体に対する投稿などをより積極的に促し、病理学会刊行物のさらなる充実を目指す。また病理学会の発する情報を他団体が転用する際のルールを整備をさらに進める。
	「診断病理」編集委員会	安田 政実	長きにわたり編集委員長を務めてきたが、残念なことに投稿数はかなり減少しており(最高・109編/2001年 vs. 最低・46編/2017年)、なかなか復調の兆しがない状況に陥っている。病理専門医を目指す若手は数的に概ね横ばいである現状とは裏腹な傾向をとっている。この「減少問題」については何度か編集委員会などでも話題として提供したが、減少の訳とその対策は具体化していない。曲がりなりにも、このペースが持続すれば、本学会誌の存続も危ぶまれることにもなりかねない。この一年は動向をみながらも、本腰をいれて課題に取り組む必要性を考える。 この春からは査読委員の方々は半分が任期交代によって入れ替わっていた。4年間の任期を終えられた査読委員、ならびに5年間の任期を全うされた副編集長の方々にはこの場を借りてお礼を言いたい。 なお、長期的な課題としては、本誌のPubMed登録が未だ進展していないため、この一年は僅かでも前進したいと考える。
	剖検情報委員会	宇於崎 宏	平成29,30年分のデータ収集を進め、データ整理後、剖検報を発刊する。過去データをNCD管理のDBに移行し、検索可能な状態にする。
用語委員会	豊國 伸哉		

常任理事 会担当者	委員会名	委員長	平成30/31年度 課題と抱負 (50-200文字程度を目安にご記入ください)
落合	学術委員会	落合 淳志	
	教育委員会	増田しのぶ	医学部における卒前教育は、低学年における総論講義、実習から高学年における臨床実習まで幅広く行われている。また、医学部ならびに関連病院での卒後教育においては、研修医CPCなど、実臨床に即した教育も行われている。診療業務負担が増える中、どのように病理学、病理診断に関する教育の質を上げることが可能かについて、具体的に検討する。病理学教育責任者間の情報共有ならびに、コアカリ画像の充実をはかりたい。
	診断病理サマーフェスト委員会	菅井 有	
	癌取扱い規約委員会 (含:小児腫瘍組織分類)	落合 淳志	
	小児腫瘍組織分類小委員会	田中 祐吉	希少腫瘍である小児腫瘍のカラーアトラスの作成は、全臓器にわたってひとりひとり済んだものの、新たな知見の増加に伴いリニューアルが必要な部分も多くみられます。今後2年間では効率的にこのリニューアル作業を進めると共に、新たな知見を含めた小児腫瘍病理診断の普及活動を継続して行おうと思います。
	ガイドライン委員会	落合 淳志	
	学術奨励賞選考委員会	落合 淳志	
	分子病理専門医検討WG	落合 淳志	
分子病理専門医認定実務SWG	落合 淳志		
森井	病理専門医制度運営委員会	森井 英一	スタートした専門医機構による専門医制度を運用していく。またサブスペシャリティ領域の専門医について議論する。病理学会は先達のご尽力によって質の高い実施試験を行い国民が信頼できる病理専門医を輩出してきたと自負している。これまでの卓越した伝統と新たな工夫から生まれる研修システムを更にバージョンアップしながら質の高い病理専門医育成に向けたシステムの構築に全力で対応していく
	試験委員会	大橋 健一	専門医試験を円滑に運営する。平成30/31年度は制度の変更のため、受験者数が一時的に増加すると考えられるが、混乱が生じないように実施委員会と協力して対応していきたい。専門医試験の難易度を適切なものにし、合格率の維持を保ちつつ、実際の病理診断の現場を任せられる病理医を合格者として出していきたい。バーチャルスライドシステムを試験により活用していきたい。
	試験実施委員会	非公開	
	専門医資格審査委員会	村田 哲也	本年度より専門医試験受験者が従来型に加え3年制のパターンも加わり、受験者の増加と資格審査の煩雑化が予想される。平成30年度は総受験者数が127名と過去最高だったが、3年制の受験者数は33名にとどまっており、平成31年度の受験者数は今年を上回ることが予想される。審査に当たっては剖検症例のNCD利用など、新たな方法を導入する必要がある。更新資格審査は順調で、対象者の80%程度が機構の専門医として更新してきた。今年度も移行期としてのガイドラインを作成し、病理学会のHPでも見やすくしたい。
	施設審査委員会	清水 道生	NCDに登録した内容を打ち出での審査が可能となり、かなり効率よく審査を進めることができるようになった。剖検数は依然として減少の傾向を辿っており、それに伴い認定施設AおよびBの数もやや減少する傾向にある。なお、登録されない研修協力施設については概ね把握が可能となりつつある。
	研修プログラム審査委員会	大橋 健一	平成30/31年度はプログラムの変更は小規模なものに留まると予想されるが、迅速に審査を進めて専門医機構による二次審査に送りたい。専門医制度の方で制度の変更がなわれた場合は適切に対応していきたい。
	病理専門医部会会報編集委員会	柴原 純二	例年通り、『診断病理』の発刊に合わせて年4回の会報を発行する。専門医制度に関わる最新情報を専門医の皆様にも周知するとともに、各号の特集記事、各支部学術活動報告を含め、充実した内容を盛り込みたい。
	口腔病理専門医制度運営委員会	仙波伊知郎	口腔病理専門医制度の更なる充実を図り、制度の再点検と研修体制の充実を引き続き行い、質の高い口腔病理医専門医の育成に努力したい。そのため、研修内容の整備、地域連携による研修環境の整備、情報提供の拡充、口腔病理専門医の連携などを実施し、優れた口腔病理専門医の育成を図るとともに、口腔疾患の病理診断業務の社会的認知度を高めていきたい。
	口腔試験委員会	石丸 直澄	幅広い知識を有する優秀な口腔病理専門医を育成することを目指し、実施委員会、医科試験委員会などと連携を図りながら円滑な試験実施を図る。また、試験問題のプール制等の制度の充実と効率化を目指した取組みを行う。
	口腔試験実施委員会	非公開	
口腔資格審査	豊澤 悟	口腔病理専門医の試験の資格審査は、新制度に対応した細則と旧制度との並存が今後数年続くため、受験生の不利にならないよう適切な判断の下に対応したい。更新資格に関しては、細則に従って、口腔病理専門医として適切な実績を明確にして審査を進める必要がある。	

常任理事 会担当者	委員会名	委員長	平成30/31年度 課題と抱負 (50-200文字程度を目安にご記入ください)
	口腔病理専門医制度基盤整備WG	長塚 仁	質の高い医療を提供する口腔病理専門医育成のための制度を検討する。日本専門医機構による専門医制度を踏まえ、歯科医療に貢献できる優れた口腔病理専門医の輩出のため、研修内容の整備や新たな資格更新基準の策定に向けた検討を進めていく。
	海外研修委員会	黒瀬 顕	ハンガリー、センメルweis大学との提携による病理解剖研修コースは3回を終わり研修方法もほぼ確立した。ハンガリーでは病院死亡例は基本的に剖検が課せられるためセンメルweis大学の年間剖検数は約500例に及び剖検手技やまとめも系統立っている。さらに病理は医療の最終検証的役割を持つ点も日本と異なる。本研修は単に剖検数獲得ではなく、伝統的に剖検が重視され医療における病理の役割自体の異なる国に出向いて実際に剖検とまとめを経験する事がテーマであり、このような機会を病理学会が提供している意義を発信したい。
	病理診断講習会委員会	坂谷 貴司	2019,2020年の総会時に行う病理診断講習会における講習会内容の策定、ハンドアウトの作成、配布について、これまでと同様継続する。若手病理医を受講者として想定した『臓器別病理診断講習会』、病理専門医の生涯教育を目的とした『系統的病理診断講習会』の2つを柱とし、知識の整理や系統的な理解を深めていただくための講習を企画していきたい。
田中	広報委員会	田中 伸哉	(1)前年度はWEB会員システムが導入され順調に稼働しているが、今年度はさらに現実的即した形に機能拡充を行いたい。特に各種講習会参加登録・管理を行う事で会員の利便性を高め、また事務局の負担軽減を目指す。(2)ホームページは現在充実したものとなっているがさらに改善、英語版の充実を目指す。特に「学術委員会」と連携し、ホームページを活用した学術集会の国際化を推進する。(3)社会への情報発信としては「社会の情報発信委員会」「病理医・研究医の育成とリクルート委員会」と連携し、市民、中高生への広報力を高める。(4)社会に向けて、前年度病理医・病理診断に関する広報動画を作成してきたが、さらに拡充を目指す。(5)リクルートを含む各種活動の広報として病理学会の様々な活動についての広報に務める。
	社会への情報発信委員会	森谷 卓也	一般市民に対する情報発信として、HANSHIN健康メッセに継続し出展する。他にも類似のイベント参加を模索する。また、市民向け動画「「病理診断」を知っていますか?」に続き、特定の疾患に関する動画の作製を行う。学生・初期研修医向けのリクルート動画の作成、病理学に関するパンフレットの改定についても検討する。
	病理医・研究医の育成とリクルート委員会	豊國 伸哉	医師・歯科医師の大学院生が対象の病理学研究新人賞選考と医学生対象の東京レジナビ参加を中心にして、病理診断医・病理研究医の両方の人材を確保し将来の病理学の裾野を広げていくように努力します。
	診療関連死調査に関する委員会	田中 伸哉	2018年5月末までの医療事故報告件数は997件であり、剖検率は40.1%と前年度の報告より約8%増加した。しかしながら依然として司法解剖が実施されるケースが少なくないのが課題である。また病理学会としては日本医療安全調査機構が実施するセンター調査の個別調査部会に委員を推薦しているが平成28年度は5名であったが、平成29年度は16名と増加した。センター調査にかかる症例で、剖検が実施された場合は病理学会に推薦依頼がくるという状況である。今年度までは、メールを中心に情報共有を優先してきたが、これからは、センター調査にかかわる会員も増えてきたため、年に1度は会議を開催してさらなる情報共有を行い、課題を洗い出して解決していきたい。
	支部委員会	鍋島 一樹	前任の森谷先生が整えられた7支部の活動状況の共有を継続し、各支部の支部員が他支部の活動にも参加できるようにしていきたい。本部からの「AMED事業」および「希少がん診断のための病理医育成事業」への協力と連携に引き続き努めていきたい。支部の情報セキュリティ対策に関しても今後とも情報を共有していきたい。
	北海道支部	西川 祐司	この2年間、病理学会本部および支部の皆様にご協力いただき、支部活動を無事進めることができた。あと2年間、気持ちを引き締めて支部のために尽力したいと考えている。本年度はまず、北海道大学 笠原正典教授が主催される第107回日本病理学会総会に支部として最大限協力したい。また、北海道支部の活動の柱である病理談話会、標本交見会、病理夏の学校を通じ、診断病理と実験病理を調和させながら、若手の育成を目指したい。
	東北支部	菅井 有	
	関東支部	大橋 健一	年4回の支部学術集会とサマーセミナーを開催、円滑に運営し、領域別講習としての特別講演等を企画する一方で、専門医制度・研修認定施設関係や医療安全/事故調査制度についての情報を支部会員に提供する。託児施設の運営など女性医師の支援について継続する。希少がんに対する会員の啓蒙のため、講演を企画していく。さらに若手病理医のリクルート、育成などの課題に取り組んでゆきたい。
	中部支部	中村 栄男	中部支部につきましては、交見会など、既に会員相互の十二分な活動実績がございます。これら活動の継続発展を図ると同時に新会員のリクルートなどに意を用いることが出来ればと存じております。

常任理事会担当者	委員会名	委員長	平成30/31年度 課題と抱負 (50-200文字程度を目安にご記入ください)
	近畿支部	横崎 宏	年4回開催する近畿支部学術集会を中心に、会員の要望を取り入れながら、活発な支部活動をめざす。支部学術集会時の託児サービスを含め、女性ならびに育児中の病理医の学術活動を積極的に支援したい。学生、初期研修医を対象にした夏の学校を今後とも継続し、支部内で稼働中の病理専門医研修プログラムの紹介など将来への人材確保の場として定着させたい。
	中国・四国支部	森谷 卓也	年3回の支部会と、病理学夏の学校を開催する。支部会ににおいて、2回は専門医領域別講習、1回は共通講習を行う予定である。また、支部会時に毎回、若手病理医の会を開催する。病理学夏の学校は10大学の持ち回りで、平成31年で2巡目が終了するため、3巡目の開催概要について見直しを行う。
	九州・沖縄支部	鍋島 一樹	支部活動は順調ですので、「若手病理医の会」の活動を一層サポートし、updateされたティーチングファイルの円滑な運用に取り組み、例年通り年6回のスラコン、年1回の病理集談会、年2回の学術講演会、病理学校開催の継続・充実に努めたい。支部ホームページのセキュリティ対策や永続的運用基盤の整備にも取り組んでいきたい。
佐々木	医療業務委員会	佐々木 毅	精度管理委員会、剖検・病理技術委員会、病理専門医制度運営委員会、口腔病理専門医制度基盤整備WGなど役職指定委員会との連携を図り、事業が円滑に遂行できるように連携をとる。また医療業務に関係するガイドラインやマニュアル等の作成・整備を行う。
	社会保険委員会	佐々木 毅	平成32年診療報酬改定に向けて要望案を作成する。また診療報酬に関する情報を発信するHPを立ち上げ、日本病理学会HPとリンクする。
	剖検・病理技術委員会	柴原 純二	これまでの委員会の取り組みを継承し、剖検に関わる現状の問題点を把握して、諸先生方の意見を参考の上、具体的な対策を講じたい。
	生涯教育委員会	鬼島 宏	会員(病理医)が生涯にわたって自らの知識を広げ、技能を磨き、常に研鑽することができるような効果的な生涯学習制度の基盤を確立する。新たにスタートした専門医制度も鑑みつつ、総会(春期)および秋期特別総会中に開催される講習会等に加え、診断病理サマーフェストや各支部活動における種々の生涯学習プログラムの意義づけを明確にして、その情報を集約することで会員に分かりやすく配信する。さらに、平成28/29年度に構築されたe-learningシステムを本格的稼働し、その内容の充実を図る作業に取り組む。
	精度管理委員会	増田しのぶ	病理診断の精度保証には、補助手段である免疫組織化学の精度管理が重要であり、課題抽出のための情報収集ならびに課題解決のための方策立案などを行ってきた。現在、病理診断を取り巻く状況は急速に変化しており、ゲノム病理診断に対応した活動も行っていきたい。
デジタルパソロジー検討委員会	森井 英一	デジタルパソロジー に関するガイドラインを作成する。	